



平和資料館 草の家 だより

No. 92

2006年9月30日発行



草と草の根の連帯をあらわす
草の家のシンボルマーク

〒780-0861 高知市升形 9-11 Tel 088-875-1275 Fax 088-821-0586
E-mail: GRH@ma1.seikyou.ne.jp <http://ha1.seikyou.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori>

「美しい国へ」、出産・新政権誕生 遺憾

皇室に新しい子どもが生まれた。歓迎一色の報道があとを絶たずに続く。どこの家でも新しい子どもの誕生は嬉しい事である。しかし、「男が生まれて良かった」と平然と言うある大臣の話の聞くと、あえて政府の男女共同参画政策を挙げなくても、時代の流れをあまりにも知らないあの感覚には唖然とせざるを得ない。

もう一つ、記者会見で二人の主治医が出産の前から子どもの親は男か女かを全然気にしなかったと、二人とも口うらを合わせて何回も強調した。それが、かえっておかしく見える。

皇室典範と現実が矛盾する心配は当面無くなったとホッとするいわゆる“有識者”からは、戦争責任を60年以上曖昧にしてきた日本社会の心理構造が見えかくれする。

結果ありきの皇室典範改定の議論が始まったときから、多くの人に聞いた。女系天皇を容認するかどうかのような時代遅れの議論が始まる前に、今こそみんなが考えるべき問題である。

あなたに天皇制は要りますか？

新しい政権も誕生した。新しい首相は小泉「改革」一庶民にとっては「改悪」一を続けるとバラ色の未来を語る。5年ぶりのファーストレディの登場にマスメディアは騒ぐ。安部自慢の「美しい国」を逆に読むと「にくい(憎い)しくつつ(苦痛)」になる。

侵略戦争の否定、核武装論、憲法・教育基本法の改悪を正面に挙げる岸信介の孫に、あまりにも期待

を寄せられない韓国では、韓流の大ファンである安部婦人に関係改善の期待を寄せると情けない報道まで出た。

確かに国際感覚が乏しく靖国参拝を続けた小泉よりは、今日も韓国ツアーに出かける市民の国際感覚が高いし、草の根の交流に未来を託したい。小泉は靖国参拝を「心の問題」だと言い切ったが、合祀取り消しを求める遺族の心は全然考えてないワガママなセリフに過ぎない。歴史の評価を強調する小泉に言いたい、歴史まで言わなくても評価はすでに出されたと。

最後の記者会見で郵政民営化をはじめ小泉政治が「非情」ではなかったのかと聞く質問に、彼はそれが国民には「温情」であると答えた。

小泉政治の「温情」がもたらした結果をみよう。

高知では財政圧迫に苦しんでいる津野町と東洋町で、「高レベル放射性廃棄物最終処分場」を誘致しようとする動きがある。津野町は日本最後の清流四万十川の源流とも言われる。地方の切り捨て、社会的弱者の切り捨てを押し付けた小泉政治の結果、取り残された地方自治体は生き残るために原発か自衛隊を誘致しようとする。田舎の住民たちはそんなところしか未来を賭けられないほど苦しんでいる。

最後に、拉致問題担当大臣を任命した安部晋三に提案したい。戦争責任清算担当大臣は？

本当の意味の「美しい国」を作るための私たちの戦いはこれからが正念場である。今こそ憲法・教育基本法を生かす戦いを強めよう！ 金英丸(事務局長)

活動報告 ピースウェイブ 2006 in 高知

「ピースウェイブ 2006 in 高知」へのご参加、ご協力ありがとうございました。

今年第28回を迎える「戦争と平和を考える資料展」は、地域の平和問題—高知城跡の遺跡からみた高知空襲、高知の戦争遺跡: 前浜掩体群—から、東アジア・世界の平和問題まで取りあげ、幅広い内容の展示となりました。

特に今年は高知県職員労働組合の「ふれあい基金」から助成金(20万円)を頂いたことをはじめ、多くの会員、団体の皆さまから沢山のカンパを頂きました。皆様の温かいご支援のおかげで、すべての行事が無事に終わることができました。皆さま方に心からお礼を申し上げます。「第28回戦争と平和を考える資料展」の感想を紹介します。

第28回 戦争と平和を考える資料展

- と き: 7月4日(火)~7月9日(金)
- ところ: 自由民権記念館展示室
- 内容
 - 高知城跡の遺跡からみた高知空襲
 - 高知の戦争遺跡: 前浜掩体群
 - 森下一徹写真展「核兵器のない世界をめざして」
 - 「イラク、占領下の子どもたち」写真・絵画展
 - 南北コリアと日本のともだち展
- 観覧者: 366名

● ありがとうございます。子どもたちの絵を展示していただき大変嬉しく思いました。

南北コリアの子どもたちの絵は明るい子どもたちの絵でして癒されますね。イラク占領下の子どもたちの絵も暗い中にも希望がありました。

(80才、女)

● 高知城跡の戦災遺物、実験瓦の展示も真実感があって良かったです。「二度と戦争はしない」の精神にもう一度素直に返ってほしい、それだけです。

(59才、男)



● 戦争は国家のトップ(特に経済界)がする事。我々は犠牲になるだけ。拒否することを続ける事が一番大事だと思いました。

(50才、女)

● どの国の子どもも可愛い笑顔。世界に平和を、戦争は反対。イラクの戦争はあれで良かったのかな?この写真を見てあらためて思う。(70才、女)